

本書における敬語の考え方について

[1 ビジネスマナーの基本 > 3. ビジネスの言葉遣い > (3) 敬語]

敬語の分類にはさまざまな方法があります。

従来は「尊敬語・謙譲語・丁寧語」の3分類による指導を行っていましたが、2006（平成18）年に文化庁文化審議会国語分科会から「敬語の5分類」が発表されました。

しかしながら敬語の5分類は、従来の3分類を細分化したものにすぎず、大きな枠組みは変わっていません。また、本書では、実際に学生が社会人として敬語を遣えるようになることを目的としており、編者及び筆者は、従来の3分類のほうが習得が容易であると考えています。

1. 敬語の5分類について

「敬語の5分類」について簡単な考え方を示します。

- ①**尊敬語**……相手側または第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるもの。
- ②**謙譲語Ⅰ**……自分側から相手側または第三者に向かう行為・ものごとなどについてその向かう先の人物を立てて述べるもの。従来、尊敬語として分類していた「相手に所属するものを高めることによって敬意を表す（⇒奥様（ご令室様）/ お宅 / 御社）」もの。
- ③**謙譲語Ⅱ**……自分側の行為・ものごとなどを話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。
- ④**丁寧語**……話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。
- ⑤**美化語**……ものごとを美化して述べるもの。自分の言葉を上品に美しくする言葉である。接頭語の「お」は尊敬語にも美化語にも使われる。

2. 敬語の基本的な考え方

敬語の理解を深めるために、長年国語教育の中に浸透してきた「尊敬語・謙譲語・丁寧語」の3分類を用いて説明を加えます。敬語においては、特に「尊敬語」と「謙譲語」の識別を明確にすることが基本であるといえます。自分では丁寧に言ったつもりでも、間違った敬語を用いると円滑なコミュニケーションがとれなくなってしまいます。敬語表現を用いることにより、相手と自分との上下関係を形成することになりますが、その反面、敬語の遣い方を間違えた時点でその人との関係は破綻してしまうのです。

敬語の基本が理解できていないと、ビジネス場面で交わされている会話を瞬時に細分化して組み立て直す作業にまで到達することができません。

よって本項では、社会人として理解しておくべき基本的な敬語の考え方を解説しています。